敬愛成人式

-18歳の節目、新たな一歩を踏み出す日-

～全国的にも珍しい18歳成人式、未来への決意を新たに～

11月25日（月）、第３学年全生徒による**「敬愛成人式」**が開催されました。「18歳成人式」とも呼ばれるこの行事は、全国的にも珍しい取り組みであり、生徒たちにとって特別な節目の日となりました。

式典は、**成人式実行委員会委員長越川大輝君による「誓いの言葉」**から始まりました（左写真）。越川君は、自身の経験を交えながら、大人としての責任や社会での役割について語り、新たな一歩を踏み出す決意を述べました。

その後、校長の**式辞**があり、生徒たちは今後の人生に向けた力強いメッセージを受け取りました。式辞では、これからの変化の激しい社会を生き抜くための「しなやかさ」と「人とのつながり」の重要性が強調されました。また、「人生の一瞬一瞬を大切にしてほしい」という言葉が、生徒たちの胸に深く響いたようです。

式典後には、立食パーティが行われ、生徒や教職員が一緒になって新成人を祝いました。
このパーティは、互いの成長を喜び合う貴重な時間となり、和やかな雰囲気の中で幕を閉じました。

本校の「敬愛成人式」は、生徒一人ひとりが自分自身の成長を実感し、未来への一歩を力強く踏み出す契機となりました。この特別な日を通じて、彼らが新しい時代を切り開き、社会に貢献していく姿が期待されます。

成人式実行委員長 越川君の感想 「最高の一日」

今回の「敬愛成人式」を企画・運営した実行委員会委員長越川君が、式を終えて感想を語ってくれました。

「4月から準備を始め、多くの新たな経験と思い出を作ることができました。一から自分たちで企画を構成し、記念品を用意するために取引先業者の方々とやり取りをするなど、これまで経験したことのない“成人らしい”取り組みをしました。様々な意見が飛び交う中、試行錯誤を重ね、最高の成人式を目指して努力を続けてきました。」

成人式当日、代表として「誓いの言葉」を述べた際には、この三年間で得た経験や「敬天愛人」の精神を胸に、自信と誇りを持って社会への第一歩を踏み出す決意を新たにしたそうです。

「この経験を糧に、最後の高校生活をより充実させていきたいと思います。本当に最高の一日でした」と語るその表情には、式典を無事やり遂げた達成感と未来への希望があふれていました。

創造力が輝く「POP大賞」
～独創性と表現力が生んだ14作品～

「POP大賞」とは、論理国語の授業において、小説などの魅力を伝えるために制作されたPOP作品を対象に、特に**独創性と表現力が優れたものを表彰**する取り組みです。
今回は、独創的な作品を制作した1年生7名、2年生7名の計14名が受賞しました。

羅生門の老婆が生む独自の世界観

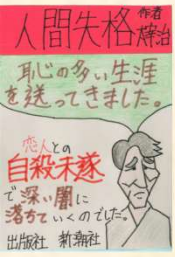
表彰者を代表して感想を述べた小林龍之助君は、自身の受賞作品（上）について次のように語りました。
「先生に老婆の表現を褒めていただけたことがとても嬉しく、それが受賞につながったと感じています。」
彼が選んだ題材は芥川龍之介の『羅生門』。最近読んだ中で一番面白かったという理由で選んだそうです。
その感想も独特で、「老婆が個人的にめちゃくちゃ怖くて、見た目がどうだったのかが気になった」とのこと。作品制作の際には、羅生門に登場する老婆がどのような姿で門の上にいるのかを想像しながら描いたといいます。さらに、インターネットで老婆のイメージを調べ、それを参考に不気味さを加えたという工夫も光ります。
「保育園時代から小学校までアニメキャラクターをよく描いていた経験が役立ちました」と語り、幼少期の創作体験が現在の表現力に繋がっていることを示唆しました。

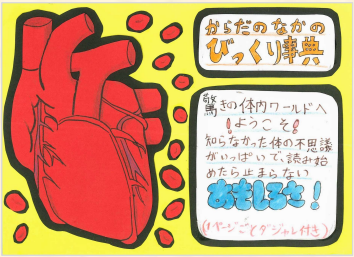
次回への挑戦意欲も

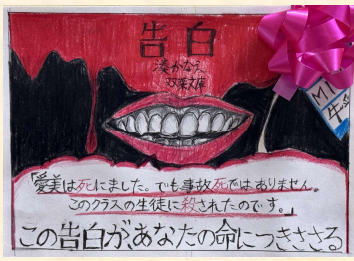
「また同じようなコンテストがあれば、ぜひ挑戦したいです」と語る小林君の姿には、次なる作品への意欲が溢れていました。受賞者たちが創造力と表現力を磨き、次回もさらに素晴らしい作品を生み出してくれることが期待されます。

今回の「POP大賞」は、ただ小説の魅力を伝えるだけでなく、生徒たちが自らの感性を自由に表現し、磨く場となりました。これからも本校では、このような取り組みを通じて生徒たちの個性と才能を引き出していきます。

※ 下は受賞作品の例です。左から３点は２年生の作品（スキャン画像）、右の２点は１年生の作品（写真）です。







バスケ部男女揃って県大会出場決定！

逆境を乗り越え、県大会へ！ －仲間とともに歩む成長の日々、県大会で新たな歴史を刻むために－

「荒削りな部分はまだまだ多いけれど、なんとか勝ち抜けました。」キャプテンの林航汰君が語る地区予選突破の喜び。その中でも特に印象的だったのは市立銚子高校戦。試合には敗れたものの、ミスを乗り越え励まし合ったチームの姿が心に残ったと語ります。頼りになる選手として桐谷選手の名を挙げ、リバウンドや得点力での貢献を称えました。
成長の秘訣を尋ねると、顧問の先生方や引退した先輩たちの指導、家族の支えが大きいと話します。そして、県大会に向けた課題として「ランメニュー」を挙げ、声を掛け合いながら厳しい練習を乗り越えるチームの結束力を強調しました。

「キャプテンでよかったと思える瞬間をこれから作りたい」と語る彼は、応援してくれる全ての人たちに感謝を述べつつ、最後まで戦い抜く決意を新たにしています。男子バスケットボール部のさらなる飛躍に期待が高まります。

一人ひとりの力がつながる瞬間、キャプテンの胸に刻まれる感謝

「地区予選突破は自分の中で簡単ではない目標だったので、未だに信じられません。」キャプテンの土屋夏穂さんは、歓喜と驚きの入り混じった気持ちを語ります。一番心に残っている場面として挙げたのは、地区予選突破を決めた試合後の礼。その瞬間に、チーム全員の努力が報われたことを強く実感したといいます。

「頼れる存在」として名前が挙がった顧問の砂明利先生は、細かい指導と明るい性格でチームを支える存在です。また、試合前夜には必ずうどんを食べるルーティンや音楽でモチベーションを高める方法も、彼女らしい工夫の一つです。

「最高のチーム」と語る現在の仲間たちとともに、県大会初戦突破を目指し練習に励む日々。キャプテンとしての苦労を振り返りつつも、周囲の支えへの感謝を忘れません。彼女たちの努力が実を結び、県大会での躍進を遂げる姿が待ち望まれます。